



**Sharing Energy with the World**  
Energy supports everyday life and society.  
Providing energy when and where it's needed,  
Is our greatest responsibility.

# 2012年3月期 第2四半期決算資料

# CONTENTS

(P2)	環境認識
(P3)	連結損益計算書
(P4)	連結貸借対照表
(P5)	連結キャッシュ・フロー計算書
(P6)	連結販売数量
(P7)	セグメント別情報
(P8)	2012年度3月期上期における経営戦略
(P16)	Core & Synergy2013
(P17)	2012年3月期通期見通し
(P23)	配当方針

## 環境認識

		2010年 3月末時点	2011年 3月末時点	2011年 9月末時点	前期差
DUBAI原油	\$/bbl	78.70 (3/31時点)	109.48 (3/31時点)	100.96 (9/30時点)	△8.52
通関CIF原油	円/KL	43,382 (3月平均)	53,400 (3月平均)	53,542 (9月平均)	+142
CP(プロパン)	\$/トン	730 (3月分)	820 (3月分)	790 (9月分)	△30
WS(ワールドスケール)	—	126 (3月平均)	129 (3月平均)	152 (9月平均)	+23
為替(TTS)	円/\$	94.04 (3/31時点)	84.15 (3/31時点)	77.65 (9/30時点)	△6.50
エネクス株価	円/株	493 (3/31時点)	476 (3/31時点)	453 (9/30時点)	△23

# 連結損益計算書

(単位:億円)

	2011年3月期 上期実績	2012年3月期 上期実績	前年同期 増減率
売上高	5,390	6,275	16.4%
営業利益	21	33	53.4%
経常利益	27	37	39.9%
当期純利益	7	13	87.6%

## POINT

- 【 売上高 】 原油価格の高騰
- 【 営業利益 】 電熱供給事業など新事業への進出、コスト削減
- 【 四半期純利益 】 前年同期:資産除去債務10億円の計上

# 連結貸借対照表

(単位: 億円)

	2011年3月末	2011年9月末	増減額
流動資産	1,679	1,526	△ 153
固定資産	1,096	1,085	△ 11
流動負債	1,391	1,308	△ 84
固定負債	443	361	△ 82
純資産	941	942	1
総資産	2,776	2,611	△ 164

## POINT

- 【 流動資産 】 売掛債権の減少
- 【 流動負債 】 仕入債務の減少
- 【 固定負債 】 長期借入金の返済による減少
- 【 純資産 】 四半期純利益、配当金の支払、繰延ヘッジ損益の増加

# 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:億円)

	2011年3月期 上期実績	2012年3月期 上期実績	増減額
営業活動CF	50	69	19
投資活動CF	△ 15	△ 32	△ 16
財務活動CF	△ 37	△ 55	△ 18
<hr style="border-top: 1px dashed blue;"/>			
	2011年3月末	2011年9月末	増減額
現金同等物 期末残高	237	221	△ 17

## POINT

- 【営業活動CF】 税引前利益及び売買所要資金の減少
- 【投資活動CF】 CS設備投資等による有形固定資産の取得、子会社株式の取得
- 【財務活動CF】 借入金等の有利子負債の返済、配当金支払による支出

## 連結販売数量（主要6品目）

（単位：千kl、千t）

	2011年3月期 上期実績	2012年3月期 上期実績	前年同期 増減率
ガソリン (千kl)	2,017	2,044	1.3%
灯油 (千kl)	433	437	1.1%
軽油 (千kl)	1,464	1,531	4.6%
重油 (千kl)	2,271	2,333	2.7%
<b>燃料油【計】 (千kl)</b>	<b>6,185</b>	<b>6,346</b>	<b>2.6%</b>
アスファルト (千t)	102	115	12.1%
LPガス (千t)	314	285	△9.2%

### POINT

【軽油・アスファルト】産業マテリアル事業本部の新規顧客獲得による増販  
 【重油】グローバル事業本部の内航船向け船舶燃料油の増販

## 伊藤忠エネクス株式会社 2012年3月期 第2四半期決算資料

## セグメント別情報

		2011年3月期 上期実績	2012年3月期上期実績			前年同期 増減率
			第1Q実績	第2Q実績	上期実績	
IM	売上高	429	289	315	604	40.7%
	営業利益	7	4	5	9	40.0%
CL	売上高	2,499	1,297	1,361	2,659	6.4%
	営業利益	12	8	12	20	72.9%
GT	売上高	2,040	1,166	1,405	2,571	26.1%
	営業利益	1	△2	7	5	246.7%
HL	売上高	413	228	192	420	1.6%
	営業利益	10	8	4	12	20.1%
TL	売上高	0	7	7	14	—
	営業利益	0	△2	△2	△4	—
消去及び全 社	売上高	8	3	4	7	—
	営業利益	△9	△5	△5	△9	—
全社【計】	売上高	5,390	2,990	3,285	6,275	16.4%
	営業利益	21	12	21	33	53.4%

## 2012年3月期上期における経営戦略

- (1) コア事業の強化
- (2) 電力関連事業の強化
- (3) コスト削減による営業利益の拡大
- (4) トータルライフ事業本部の展開

## (1) コア事業の強化(1/2)

### ■ CL事業本部:グループ会社の再編

- ・ 2010年度に実施した4エリアにおけるグループ会社の再編により、経営基盤の再構築を実行。
- ・ 年間を通じて安定したカーライフ収益を確保するCS経営へ。(季節要因の影響を最小化)

⇒ 連結子会社全社(5社)が前年同期からの大幅な収益改善を達成

### ■ HL事業本部:LPガス販売事業のエリア戦略の推進

- ・ LPガス販売事業の基盤拡大と競争力の強化を目的に、関東エリアに3つあったグループ会社を統合。(2011年7月実施)
- ・ 統合したグループ会社の既存資源であるSPを活かした物流の効率化を実行。

⇒ 大消費地区である関東エリアでの競争力強化

## (1) コア事業の強化(2/2)

### ■ IM事業本部：新規顧客獲得による販売数量拡大

- ・ 各エリアでの新規顧客獲得戦略を積極的に推進。
- ・ 軽油、A重油、アスファルトを中心に前年同期を上回る販売数量を達成。

⇒ 事業本部(計)で前年比 13%増と販売数量拡大に貢献

### ■ GT事業本部：各事業における収益力の強化

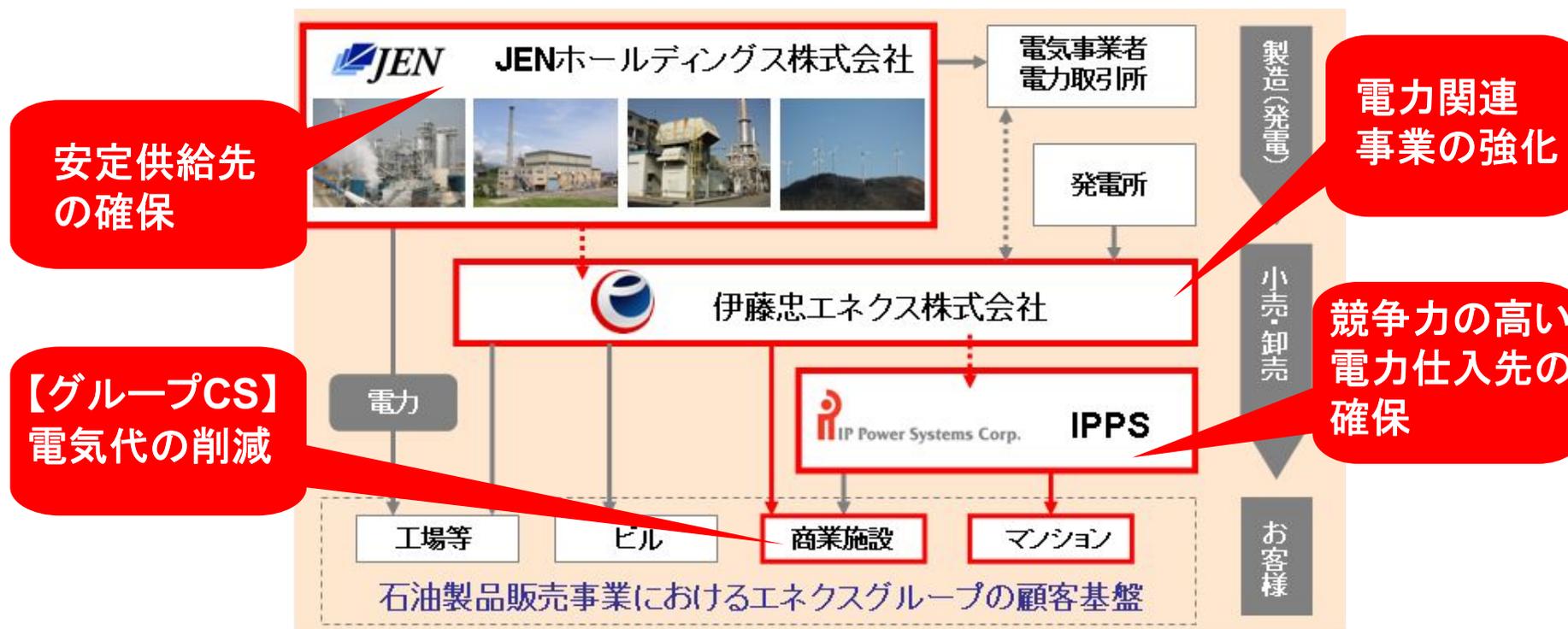
- ・ 石油製品トレード事業 : 他事業本部やグループ会社との連携強化による収益力強化。
- ・ 船舶燃料油販売事業 : 物流の強化(自社専用配給船)により前年同期を上回る販売数量を達成。
- ・ タンカー傭船事業 : 自社支配船の運航効率向上。

⇒ 前年同期から着実に収益改善を達成

## (2) 電力関連事業の強化(1/2)

### ■ エネクスグループ内におけるシナジーの創出

- ・ 中国電力管内において、JEN防府エネルギーサービス(株)の発電電力をアイピー・パワーシステムズ(株)とエネクス石油販売西日本(株)の5CSへ供給スタート。
- ・ 2011年11月より、新たにコーナンフリートの9CSにも供給をスタートする予定。



## (2) 電力関連事業の強化(2/2)

### ■ JEN防府への投資実行



設備(ボイラー・タービン・ジェネレーター)の更新による発電効率の向上と原料費の低減



(写真)防府エネルギーサービス株式会社

### ■ JEN上越への投資実行



ガスエンジン新設による出力量の増強



(写真)上越エネルギーサービス株式会社

## (3) コスト削減による営業利益の拡大

### ■ 不採算CSの運営撤退等によるコスト削減

(カーライフ事業本部)

エネクスフリート(株)(旧:コーナンフリート(株))やエネクス石油販売西日本(株)などで不採算CSの運営撤退を推進。事業基盤の再構築を実行。

⇒ CS運営の効率向上を達成

### ■ LPガス販売事業におけるグループ会社の統合

(ホームライフ事業本部)

(株)神奈川ガスターミナルとエネクスクリーンパワーエナジー(株)の2社を伊藤忠エネクスホームライフ関東(株)に統合。

⇒ 連結子会社の統合によるコスト競争力の強化

## (4) トータルライフ事業本部の展開

### 部門横断型事業の展開による収益強化

産業マテリアル事業本部・カーライフ事業本部・ホームライフ事業本部  
およびグローバル事業本部を横断した事業展開

#### ■ 再生可能エネルギーへの取組強化

- ・ 太陽光発電システムの販売拡大と普及促進

#### ■ 化石燃料の高度化利用

- ・ 家庭用燃料電池「エネファーム」の販売拡大

#### ■ 創造型需要ビジネス

- ・ 電動バイク「e-runner」の販売
- ・ 家庭用リチウムイオン蓄電システム「HEMS(※)」の開発

※ HEMS:ホーム・エネルギー・マネジメント・システムの略



(写真) 電動バイク「e-runner」



(写真) HEMS実証機

# Core&Synergy2013

グループ中期経営計画



～変革の実行を通じて新たなステージへ Phase II～

**対象期間** 3カ年(2011年度～2013年度)

## 基本方針

50年にわたって培ってきた様々なネットワーク、資産を総動員しCore事業の強化・高度化と、創造型需要の開拓と取り込みを行い、エネルギーのベストミックス提案型企业として地域社会と共に持続的な成長を実現しながら、収益拡大を狙う。

# 2012年3月期通期見通し

(単位: 億円)

	2012年3月期 上期実績	2012年3月期 通期見通し	(前年上期実績)	(前年通期実績)
売上高	6,275	12,690	5,390	11,857
営業利益	33	93	21	90
経常利益	37	95	27	96
当期純利益	13	40	7	39

## ■セグメント別営業利益

(単位: 億円)

	2011年3月期 通期実績	2012年3月期 通期見通し	前年差
産業マテリアル	18	19	1
カーライフ	48	49	1
グローバル	7	15	8
ホームライフ	37	40	3
トータルライフ	-	△ 8	-
消去及び本社	△ 20	△ 22	△ 2
<b>【計】</b>	90	93	3

## 産業マテリアル事業

(単位:億円)

	2012年3月期 上期実績	2012年3月期 通期見通し	(前年上期実績)	(前年通期実績)
売上高	604	1,320	429	1,181
営業利益	9	19	7	18

### < 下期の取組み >

- エリア戦略の推進によるさらなる新規顧客獲得と拡販
- 物流機能の強化(新規アスファルト基地建設)
- 電力関連事業の強化

# カーライフ事業

(単位:億円)

	2012年3月期 上期実績	2012年3月期 通期見通し	(前年上期実績)	(前年通期実績)
売上高	2,659	5,600	2,499	5,487
営業利益	20	49	12	48

## < 下期の取組み >

- エリア戦略の推進による新規系列CS数の拡大
- リテール機能の強化による既存販売店及びグループ会社の収益安定化
- 石油製品流通機能の高度化

# グローバル事業

(単位:億円)

	2012年3月期 上期実績	2012年3月期 通期見通し	(前年上期実績)	(前年通期実績)
売上高	2,571	4,700	2,040	4,223
営業利益	5	15	1	7

## < 下期の取組み >

- 石油製品流通機能の高度化、グループ会社との取組強化  
(石油製品トレード事業)
- 自社支配船の運航効率化とスポット傭船代行、運航代行の積極展開 (タンカー傭船事業)
- 営業力強化による船舶向け販売数量の拡大 (船舶燃料油販売事業)

## ホームライフ事業

(単位:億円)

	2012年3月期 上期実績	2012年3月期 通期見通し	(前年上期実績)	(前年通期実績)
売上高	420	980	413	949
営業利益	12	40	10	37

### < 下期の取組み >

- 同業他社との資本業務提携の推進
- 太陽光発電システム、家庭用燃料電池「エネファーム」等の新エネルギー機器の販売拡大
- エリア会社の競争力強化  
(i-Bingo、G-Bingoの活用によるさらなる業務効率化)

# トータルライフ事業

(単位:億円)

	2012年3月期 上期実績	2012年3月期 通期見通し	(前年上期実績)	(前年通期実績)
売上高	14	80	-	-
営業利益	△ 4	△ 8	-	-

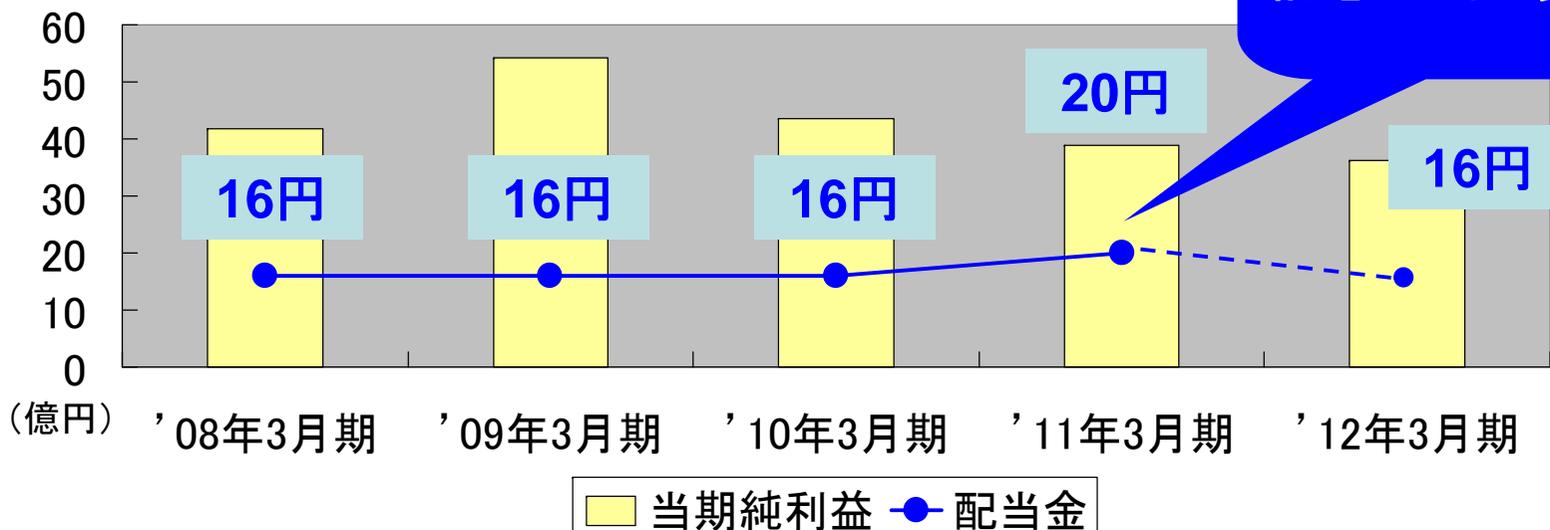
## < 下期の取組み >

- 日本エコシステム(株)との連携強化による太陽光発電システムの販売拡大
- 電動バイク「e-runner」の販売拡大
- 家庭用リチウムイオン蓄電システムの販売
- 「車」と「住まい」の融合を図る実証プロジェクトのスタート

# 配当方針

- 配当性向30%以上を目標。
- 通期の配当は業績を勘案しながら対応。

創立50周年  
記念配当の実施



	'11年3月末	'12年3月末 見通し
配当性向	58.6%	45.5%
EPS (1株当たり当期純利益)	34.1円	35.1円
BPS (1株当たり株主資本)	806.0円	821.1円

# ご清聴ありがとうございました

## (1)ご注意

●資料の内容につきましては細心の注意を払っておりますが、掲載された情報の誤りおよび当資料に掲載された情報に基づいて被ったいかなる損害についても、当社及び情報提供者は一切責任を負いかねます。

●また、当資料に記載されている当社の現在の計画、戦略などは、当社が現時点で入手可能な情報を基礎として作成した見通しであり、これらの将来予測には、リスクや不確定な要因を含んでおります。そのため、実際の業績につきましては、記載の見通しと大きく異なる結果となることがあります。従って、当社として、その確実性を保証するものではありませんのでご了承ください。

## (2)問い合わせ先

伊藤忠エネクス株式会社 IR広報室  
【TEL】03-6327-8003 【FAX】03-5418-2204  
【E-MAIL】enex\_irpr@itcenex.com